

史跡松江城整備基本計画の策定

報告 3

令和6、7年の2カ年で『史跡松江城整備基本計画』を策定しました。

国宝松江城課

史跡松江城整備基本計画



令和8年(2026)3月
松江市

史跡松江城整備基本計画



史跡松江城の現状・課題

史跡松江城整備基本計画について

～文化財価値の保存と来訪者の快適な利用環境のために～

史跡松江城保存活用計画【平成29年3月策定】

史跡松江城の保存及び活用のあり方を明らかにし、その保存や整備に関する将来的な方針を示すもの。



史跡松江城整備基本計画【令和8年3月策定】

史跡松江城保存活用計画をもとに、整備の**基本理念・基本方針**を明らかにし、**分野ごとの個別計画**のほか、**事業期間**や**完成予想図**を示す。（概ね10年先までの計画）



史跡松江城整備基本計画策定委員会

構成委員と策定スケジュール

氏名	専門	所属
清水 真一	建築史	徳島文理大学教授 (史跡松江城整備検討委員会委員長) (松江城調査研究委員会委員長)
佐藤 仁志	植生	元島根大学非常勤講師、樹木医 (史跡松江城整備検討委員会委員)
高屋 茂男	城郭	島根県立八雲立つ風土記の丘所長 (史跡松江城整備検討委員会委員)
松尾 信裕	考古	元大阪城天守閣館長 (史跡松江城整備検討委員会委員) (松江城調査研究委員会委員)
北野 博司	城石垣	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター センター長・教授 ※文化庁の石垣に関する協力者会議 副座長
杉 岳志	近世史	島根県立大学人間文化学部准教授 (松江歴史館運営協議会委員)
井上 悦子	景観	アトリエマツダ代表 (松江市都市計画審議会委員) (元松江市景観審議会委員)

委員会	内容
第1回 令和6年10月18日	・史跡松江城の概要紹介 ・整備基本計画策定の経緯と目的 ・史跡松江城保存活用計画の概要紹介 ・現地視察 ・整備基本計画の目次構成とスケジュール
第2回 令和7年2月21日	・計画書の目次構成の確認 ・史跡松江城の調査成果と整備の概要の検討 ・史跡松江城の本質的価値と構成要素の検討 ・史跡松江城の現状と課題の検討 ・整備の基本理念と基本方針の検討
(令和7年3月末)	(史跡松江城整備基本計画(第1章～第5章)案完成)
第3回 令和7年9月16日	・整備基本計画(第1章～第5章)案の確認 ・整備計画の内容の検討
第4回 令和7年12月19日	・整備基本計画(全章)案の検討
令和8年1～2月	パブリックコメントを実施
第5回 令和8年2月20日	・整備基本計画(全章・概要版)の確認
令和8年3月	史跡松江城整備基本計画の印刷製本・策定

松江城を未来へ伝えるために

史跡松江城整備基本計画 概要版



令和8年(2026)3月

松 江 市

史跡松江城の概要

松江城は、宍道湖と中海をつなぐ大橋川西端の北側、島根半島の山脈から派生する丘陵先端部の亀田山につくられた平山城です。関ヶ原合戦の戦功により出雲国に入った堀尾吉晴が慶長12～16年（1607～1611）に築城し、堀尾家、京極家、松平家と藩主を替えながら、明治維新を迎えました。

明治8年（1875）に城内の多くの建造物は取り払われましたが、本丸、二之丸、三之丸の縄張りや石垣、堀といった遺構は残っており、山陰地方における代表的な近世城郭として昭和9年（1934）に国の史跡に指定されています。

一方、旧藩士や豪農の尽力によって取り壊しを免れた天守は、「慶長16年」と記された祈禱札が発見されたことで完成年が明らかとなり、平成27年（2015）に国宝指定されました。

計画策定の経緯と目的

戦後、城山公園一帯は都市公園（歴史公園）としての整備が進みました。多くの市民や観光客が訪れる一方、次第に石垣の破損や建築遺構の埋没などが問題になりました。市は種々の対策を行い、平成5年（1993）には「史跡松江城環境整備指針」を策定し約20年をかけて整備を進めた結果、ほぼ現在のような姿になりました。

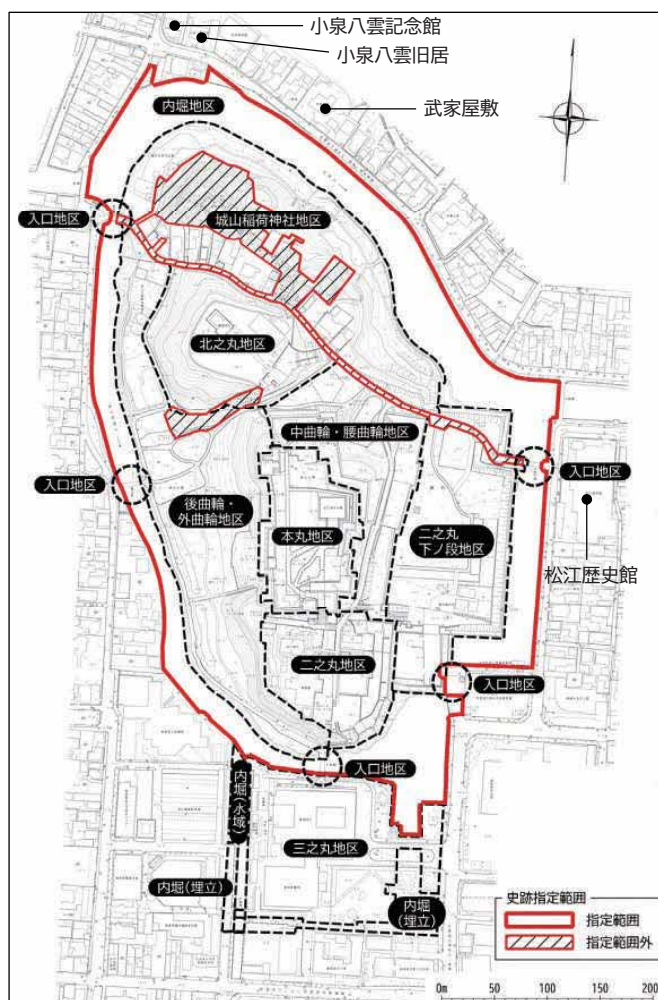
その間、平成29年（2017）に「史跡松江城保存活用計画」を策定して城の管理を進めてきましたが、すでに9年が経過し、石垣の修理、園路やサインの更新などが喫緊の課題となってきたことを受け、同計画をベースとして整備と活用を計画的に進めることを目的として、「史跡松江城整備基本計画」を策定することとしました。

計画の対象範囲と地区区分

本計画の主たる対象範囲は、図の赤線で囲った「史跡指定範囲」の内側です。

史跡内を「本丸地区」「二之丸地区」「二之丸下ノ段地区」「中曲輪・腰曲輪地区」「北之丸地区」「後曲輪・外曲輪地区」「城山稻荷神社地区」「内堀地区」及び「入口地区」の9地区に区分し、地区ごとの現状や特性を踏まえたうえで、各地区に応じた計画を立案しています。

また、松江城周辺には松江歴史館、武家屋敷、小泉八雲記念館・旧居など、松江城と歴史的、文化的に関連の深い施設が立地していることから、計画の検討に当たっては、必要に応じてこれらの存在に配慮しています（サイン計画における動線計画など）。

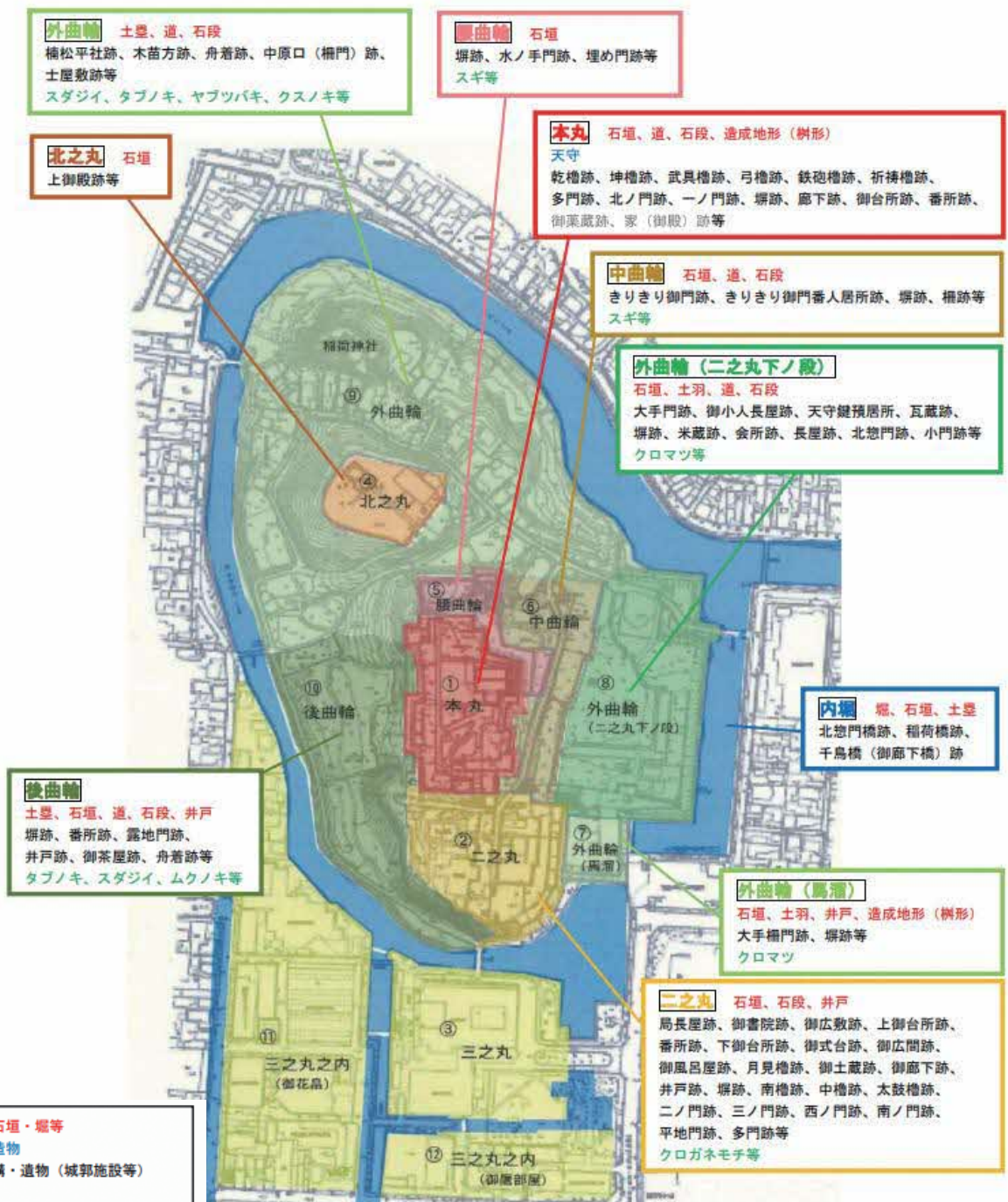


史跡松江城の本質的価値と構成要素

本質的価値

- ア 戦国武将の堀尾吉晴・忠氏父子が、宍道湖畔に位置する亀田山を新たな居城として計画し、吉晴が実質的な指揮を執って慶長12～16年（1607～1611）頃にかけて築城した平山城。
- イ 亀田山頂上に本丸を置き、周囲に二之丸、腰曲輪、中曲輪、外曲輪（二之丸下ノ段）、後曲輪、北之丸、外曲輪を配置して周囲に内堀を巡らせ、内堀を挟んで三之丸を配置する。曲輪内には、石垣、土塁、門、櫓などのほか、天守や御殿をはじめとする施設が建設され、軍事施設としてだけでなく、松江藩の統治拠点としての役割も果たした城郭。
- ウ 堀尾氏により慶長年間に築城された縄張りや石垣などが、京極氏、松平氏と藩主が移り替わっても基本的に守り伝えられて現在も残る、山陰地方における代表的な近世城郭。
- エ 権力と城下町の繁栄を象徴する四重五階地下一階の慶長年間創建の天守が重層的な石垣の上に現存する城郭空間が、近世城郭としての特徴を顕著に表す。

本質的価値の構成要素



比較的正確に記録された文献史料や絵図、古写真が残る**18世紀から幕末の松江城の姿を可能な限り具現化すること**を整備の目標とします。

整備の基本理念

- **今に残る近世城郭・松江城の城郭遺構を守り伝える**
慶長年間に築城された堀尾氏による縄張りが今に残る近世城郭としての松江城の本質的価値を次世代に伝えていくため、**確実に保存**していきます。
- **近世城郭・松江城の姿を可能な限り具現化する**
松江城の城郭施設としての建造物は、天守を除き明治8年（1875）に取り壊されています。このため、今後の整備では発掘調査や史料調査の成果に基づき、**近世城郭としての松江城の姿をできる限り具現化**するように努めます。
- **天守が現存する近世城郭・松江城の象徴性を表出する**
幕末の絵図を見ると、松江城天守は、多門や櫓で取り囲まれた本丸の中で、領主の権力と城下町の繁栄を象徴するかのようにはっきりと大きく強調して描かれています。この**象徴性を理解**することができると、整備を行います。
松江四季眺望面より（部分）
- **松江城に残る近代の歴史も尊重する**
松江城二之丸には、明治期に「松江市工芸品陳列所」として建設された興雲閣が県指定文化財として現存します。城郭施設ではありませんが、近代の松江城の歴史を尊重し、こうした**歴史的建造物も保存し活用**していきます。
- **歴史公園として安心安全で快適な環境を整える**
松江城は、史跡としてだけでなく、都市計画公園、都市公園としての歴史公園であり、松江市を代表する観光地でもあります。訪れる多くの人々が松江城に親しみをもち、人々の文化的向上に資することができるよう、**安心安全で快適な環境**を整えていきます。

整備の基本方針

- ① **確実な保存のための整備**
地下埋蔵遺構や天守をはじめとする建造物については、必要に応じて保存のための整備を推進するとともに、古樹・大樹については倒木や鳥獣被害の防止に努めます。
- ② **史跡の価値に基づく整備**
天守、石垣、堀など史跡の構成要素については、その価値が正しく理解されるよう学術調査を踏まえた整備を行います。
- ③ **公開活用の利便性を高め、良好な景観形成に資する整備**
園路や便益施設におけるユニバーサルデザインの導入、わかりやすい案内の工夫など公開活用の利便性を高めるとともに、その整備にあたっては良好な景観形成に配慮します。
- ④ **公開活用の安全性を高める整備**
園路沿いの危険木の伐採、損壊した園路や石段の補修、石垣付近の安全柵の設置など、安全性を高める整備を行います。
- ⑤ **都市構造の核として松江城の全体像を理解できるような整備**
松江城が都市構造の核であることを顕在化できるよう、天守、曲輪の石垣等の重要な遺構を望む場所にビューポイントを設定するほか、椿谷や武家屋敷方面といった史跡内外への広域的な回遊に資する園路、案内サイン等の整備を行います。
- ⑥ **市民の憩いの場、公園としての環境整備**
歴史的景観にそぐわない植栽や危険木については適切な処置を図る一方、本丸や二之丸のサクラ、明治以降に整備された本丸園路や記念植樹など、市民や来城者に親しまれているものについては松江市の近代化の歴史に関わる遺構と捉え、史跡の保全に支障がない範囲で今後も活用整備を図ります。
- ⑦ **歴史的環境と自然環境が一体となった景観の保全**
樹林や水辺に生きる多様な生物の生息に配慮し、自然環境の保全に努めるとともに、松江城と隣接する伝統的美観地区と一体となった景観形成を図ります。

整備計画の分野

史跡松江城の価値を確実に保存するとともに、その価値と魅力を安全快適、かつ、わかりやすく伝えることができる環境を整えるため、本計画では**5つの重点分野**を定め、今後10年間を見据えた基本的な整備計画をとりまとめました。さらに、重点分野以外の11分野についても長期的な視点から、整備の基本的な方向性を整理しています。

重点分野

①石垣保存計画



②園路整備計画



③植生管理計画



④サイン計画



⑤排水設備計画



重点分野以外

- | | |
|------------|-----------------|
| ●遺構保存計画 | ●建物修復・復元計画 |
| ●遺構表現計画 | ●防災・防犯計画 |
| ●管理・便益施設計画 | ●公開活用施設計画 |
| ●周辺環境保全計画 | ●地域関連文化財等整備活用計画 |
| ●整備関連調査計画 | ●公開活用計画 |
| ●管理運営計画 | |

整備基本計画（重点分野）

※ここでは、重点分野に関連する主な整備計画・整備箇所のみ掲載しています。
詳しい内容や、重点分野以外の計画については、計画書本編をご覧ください。

①石垣保存計画

- 石垣の保存は、これまでに実施した石垣の診断結果に基づき、日常管理→保護措置→石垣修理の流れで行います。
- 日常管理**では、目視や測量機器を用いて石垣の状態を観察するほか、雑草の除去、亀裂等の有無の確認などの維持管理を行います。
- 日常管理で異常がみられた場合などは、排水対策、樹木管理、堀内の波消し対策などの**保護措置**を講じます。
- 石垣の修理**が必要と判断された場合は、専門家の助言を得ながらその要否等を検討し、次の措置を講じます。
【応急的措置】立入禁止区域の設定、落石防止ネットの設置、石垣支障木の伐採等
【部分補修・補強】土嚢やジャカゴ等の設置、間詰石の補充、捨石の設置（堀石垣）等
【解体修理】大きな変動や落石、亀裂等が確認された場合、地震等天災による崩壊が生じた場合に検討します。

- 取組みの例（主たる見学動線沿いの石垣）

- | | |
|---------------|----------------------|
| A 動態観測 | B 立入制限 |
| C 解体修理 | D 落石ネット（設置済み） |

②園路整備計画

- 現況の問題点の多くが表層（舗装）剥離なので、整備の基本方針は再舗装による表層の回復とします。
- 必要に応じ、園路に付帯する側溝の整備を検討します。
- 歩行者専用区間と、管理用道路など歩行者と車両の通行が想定される区間とに分け、前者は歩きやすい土系舗装を、後者は荷重に耐えられるアスファルト系舗装などを採用し、色彩も周辺環境との調和に配慮します。
- 幕末期の城道と重なる区間でサイン等によりその旨を明示したり、石垣に囲まれた「枳形」を意識した整備を行うなど、往時の雰囲気を感じられる整備を検討します。
- 本丸まで車椅子で行けるような、バリアフリールートの整備可能性について、調査検討を深めます。

- 取組みの例（舗装改修は全域にわたるため区間は割愛）



- | |
|---------------------|
| A 城道を想起させる整備 |
| B 枳形を想起させる整備 |



※ベースの下図は整備基本計画図（イメージ）です。

③植生管理計画

- 松江藩政の拠点の近世城郭として作られた植生景観に関する調査研究を行い、その歴史的植生景観の保全を図ります。
- 一方、近年では倒木等の問題が顕在化していることから、園路沿い等を中心に樹木の危険度診断を進め、計画的な観察や点検を行うとともに、必要に応じて伐採・剪定等を行います。
- 石垣、園路、排水設備への影響を調査し、対策を講じます。
- 本丸のサクラや椿谷のツバキ類など、修景等の目的で植栽・記念植樹された樹木は、その目的が達成されるよう、剪定や樹勢回復措置等によって適切に管理します。
- 病虫害被害の予防と拡散防止対策を適切に行うほか、サギ類等による糞害防止対策に関する調査研究を進めます。
- 天守の眺望点としてビューポイントを設定し、樹木の成長により視界が妨げられる場合は、伐採や樹高調整を検討します。
- 取組みの例

- | | |
|---|---------------------|
| a 危険度診断の実施
※本丸、二之丸、二之丸下ノ段等は実施済み | b ビューポイント（案） |
|---|---------------------|

④サイン計画

- 「案内」「誘導」「解説」「記名」「注意・規制」の各機能に応じたサインを適切に配置します。
- 老朽化したサインの更新と、デザインの統一を進めます。
- 言語は日本語と英語を基本とし、QRコードを活用したWEBサイト連携により、他言語への対応や多彩な情報提供を行います。
- 見学者や観光客が多い史跡入口の城内案内や、重要分岐点での的確な誘導に資するサインを新設・更新し、わかりやすさの向上と、松江歴史館等の史跡外を含む広域移動を支援します。
- 取組みの例

- | | |
|--------------------|------------------------|
| a 城内案内サイン整備 | b 重要分岐点の誘導サイン整備 |
|--------------------|------------------------|

⑤排水設備計画

- 現状で十分解明されていない史跡全体の雨水排水体系を明確化し、円滑な流下能力の確保方策を検討します。
- 側溝がない園路では、園路整備に合わせた追設を検討します。
- 降雨後の滞水や、石垣に悪影響を及ぼす排水不良の原因調査を進めるとともに、遺構への影響に配慮した対策を検討します。
- 取組みの例

- | | |
|------------------|-------------------|
| A 石垣の排水対策 | B 降雨後の滞水対策 |
|------------------|-------------------|

事業推進体制

史跡松江城の整備に当たっては、松江市が中心となり、国、県、大学、史跡松江城整備検討委員会等の助言・指導を得つつ、指定管理者、市民、企業、NPO、ボランティア等の幅広い主体との協働により、その推進を図っていくこととします。

事業スケジュール

今後の分野別の事業スケジュールは次のとおりです。なお、重点分野以外については長期的な対応を想定していますが、条件が整えば10年以内（短・中期）での事業着手もあり得ます。

分野区分	対応措置の概要		短期					中期					長期	
			2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036～	
重点分野	石垣保存計画	動態観測												
		解体修理	発掘調査		基本設計	実施設計		解体修理						
	園路整備計画	改修・補修工事				基本設計	実施設計	改修・補修						
		付帯側溝の補修												
	植生管理計画	危険木調査・管理	台帳作成	鎮守の森診断		フォローアップ診断								
		危険木対策	伐採・剪定											
		石垣支障木対策												
	サイン整備計画	サインの更新、新規設置												
	排水設備計画	排水側溝の補修				現況詳細調査	側溝の補修工事							
	重点分野以外	遺構保存計画												
建物修復・復元計画														
遺構表現計画														
防災・防犯計画														
管理・便益施設計画														
公開活用施設計画														
周辺環境保全計画														
地域関連文化財等整備活用計画														
整備関連調査計画														
公開活用計画														
管理運営計画														

- 史跡松江城整備基本計画の詳しい内容は、松江市ホームページに掲載している計画書本編をご覧ください。（「史跡松江城整備基本計画」で検索）
- 国宝松江城天守は、令和9年度（2027）から大規模な保存修理工事を行います。安全に十分配慮するとともに、公開への影響が最小限となるよう配慮しながら実施してまいります。
- 松江のシンボル松江城を末永く保存・活用していくため、今後とも皆様の幅広いご理解とご協力をお願いいたします。